

かったことから、当事者と非当事者の両者とも、高度のオープン・コミュニケーション（当事者三者間で直接コミュニケーションをとること）をあまり好まないのではないかと推察される。

今回の、この、産みの親、養親、養子の三者間のコミュニケーションについての調査は、日本では恐らく初めての試みであったであろう。非当事者が共感するオープン度の平均値が一貫して中間の値に近かったことから、まだオープン度に関する一般の人の意見が確立されていないと考えられる。したがって、啓発しだいで、クローズドアダプションよりも産みの親のニーズをもっと考慮するセミオープンアダプションが日本でもこれから増える可能性があるかと筆者は予測する。

第三に、血縁重視社会における養子縁組をどう見ているかについて、日本ではまだ理論化されていないため、この調査ではKirk (1964, 1981) の理論を元に行なったので、真の実態を効果的に把握できなかったのではないかと考えられる。ともあれ、血縁重視社会の中で、養親子が肩身の狭い思いをしていると思った人は、当事者、非当事者の両グループとも少なかった。また、非常に多くの非当事者が、他人の子どもを育てる養親は立派だと答えたことと、非当事者の、養親のハンディキャップに対する否定的対処法への共感度が比較的高かったことから、日本の一般の人たちは、子どものための養子縁組をあまり身近に感じていないのではないかとと思われる。

以上のことから、一般の人たちへの今後の啓発により、子どものための養子縁組がもっと増えてくると筆者は確信する。そのためにも、今回は被験者として含まれていなかった、養子たち自身の養子縁組についての考えを把握する調査が今後必要となるであろう。また、日本古来の民族的感情、養子縁組の歴史などを更に深く研究し、日本独特の血縁関係に関する考え方を再検討するに値すると思う。

なお、今回のデータ分析は、当事者と非当事者の2グループ間の比較というかたちでおこなったが、養親と産みの親間の比較、一般市民と専門職に分けての分析、多くの被験者に熱心に書いていただいたコメントの分析などを実施することも筆者に残された課題である。

最後に、今回の意識調査に御協力下さった、全国児童相談所の職員方、環の会の方々、そして聖母学院小学校、聖母女学院短期大学の保護者の皆さまに心から感謝するものである。

#### 参考文献

- Chapman, C., Dorner, R., Silber, K., & Winterberg, T. S. (1987). "Meeting the Needs of the Adoption Triangle Through Open Adoption: The Adoptive Parent." *Child and Adolescent Social Work*, 4 (1): 3-12.
- Child Welfare League of America. (1995). *Standards of Excellence for Family Foster Care Services: Revised Edition*. Washington, DC, CWLA.
- Demick, J. (1993). "Adaptation of Marital Couples to Open Versus Closed Adoption: A Preliminary Investigation." *Parental Development*. Ed. Demick, J., Bursik, K.; & DiBiase, R., New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers: 175-201.
- Demick, J. & Wapner, S. (1988). "Children-in-Environments: Physical, Interpersonal, and Sociocultural Aspects." *Children's Environments Quarterly*, 5 (3): 54-61.
- Gritter, J.L. (1997). *The Spirit of Open Adoption*. Washington, D. C.: Child Welfare League of America.
- Gritter, J. L. (1989). *Adoption Without Fear*. San Antonio: Corona Publishing Company.
- Grotevant, H. D., McRoy, R. G., Elde, C. L.; & Fravel, D.L. (1994). "Adoptive Family System Dynamics: Variations by Level of Openness in the Adoption." *Family Process*, 33: 125-146.
- 星野寛美 (1997) 「『環の会』って知っていますか？」あごら (関東労災病院機関誌) Part II, Vol. 26: 12-15.
- 岩崎美枝子 (1997) 「民間の養子斡旋団体・個人の実態調査」第60回養子と里親を考える会研究会での11月1日発表。
- 桐野由美子・芝野松次郎 (1997) 米国に於ける乳幼児オープン・アダプションの研究」関西学院社会学部紀要77号: 161-171.
- Kirk, H. D. (1981). *Adoptive Kinship: A Modern Institution In Need of Reform*. Toronto: Butterworths.
- Kirk, H. D. (1964). *Shared Fate: A Theory of Adoption and Mental Health*. New York: The Free Press of Glencoe.
- 国際連合 (1989) 「子どもの権利条約 (Convention on the Rights of the Child)」
- Kraft, A., Palombo, J., Woods, P., Mitchell, D.; & Sch-